

售賈客。郡守縣令。圍笠農裘。醫藥卜筮之輩。窈窕美婦。藍樓醜女。質々巧人。伶傳行旅。無德貴人。有德君子。籛餘戚施。走馬遲牛。或輿賀贊者。或負柩者。吉凶錯雜。往來絡繹。如蟻如魚。如行如駐焉。既而夕陽沈西海。暝々夜將半。群動已休。四顧寂々。雲收霧卷。太虛湛然。嗚呼留意於有無之間者。其觀于此。可無感乎哉。是爲記。

右大澤某老稱君山者作也。愚謂。此橋之架幾百年於今。曾有一人爲文而記之者乎。犀橋有記。蓋擬于此可嘉。

一、二丸殿營造の入費

元祿九年三月二丸御新宅出來に付、御費用御尋の處、御作奉行上候紙面の寫。

覺

一、九十八貫八百五十六匁

右は貞享三年二丸御家御住居替、御新宅共御入用銀高。

御建家坪數五百六十七坪餘。但一坪御入用百七十四匁三分。

但同所御修補御入用も、右銀高の内を以て仕候。

一、四百八十六貫百四十三匁三分

右は元祿七年六月より同八年六月迄、二御丸御作事御入用

銀高。

御建家坪數二百六十一坪、御入用一貫八百六十五匁。

一、九百二十一貫四百六十三匁七分七厘

右は元祿九年六月より同十年閏二月迄、二御丸御作事御入用銀高。

御建家坪數六百二十七坪餘。但一坪御入用一貫四百六十九匁六分。但御表向御修補并戌年御建屋殘御造作御入用も、

右銀高の内を以て仕候。以上。

一、經解七百冊渡來の事

經解七百冊元祿八年乙亥初而渡來。但此書は五經・四書・孝經之末書等全部集め申候。宋元諸儒之末書にして明朝の末書は終に有之候。末書百三十餘部有之候。去七年初而三部渡來、内一部は御物に成候。當八年八部渡來に、御内御文庫へ二部御入置被遊候。

一、千宗室へ巻物組の儀諮問

松雲公御代元祿八年巻物組の儀、千宗室へ御尋被遊候處に、三卷より多くは卷不申ものゝ由申上候。向後右の通可相意得由、御書物奉行等へ被仰渡候。

一、杉原紙を檀紙に改む

元祿六年三月望、節姫様へ御鐵漿爲御祝儀白銀二十枚一荷二種、從相公様被進候時、御右筆土師清太夫御目錄指上候處、杉原紙にて認候。是は檀紙にて可有之所、如何の儀にて杉原にて相調候や、下つかたへは檀紙にて無之と可申候や、公方様へ猿樂へ萬疋被下候時も引合に候。其外官領等へ、昔は公方より御太刀等被下候。左様の時分皆檀紙にて候。如何の旨御尋被成候處、如被仰出下つかたへ檀紙不罷成との儀にては無御座候。四座大夫勳進能の時分、諸大名方より、時服被下候時分なども檀紙に御座候。右御目祿重陽・歲暮御祝儀被進候時分、前々杉原にて調來候故、今日も其通に相調申由にて、檀紙に調替上申候。向後檀紙御用に候事。

一、箱入御停止の事

同年四月十八日於金澤、前田主税近江守爲御機嫌伺黒海苔一籠、甘鯛一籠致獻上候所、於御前黒海苔の籠の内御覽被成候所、籠の内箱入に相認有之候。當時箱入御停止は、費用無之様にとの儀にて、箱入の御定に候處、籠の内箱入子に仕候ては、外よりの見分迄にて、筋の違申儀に候。此段奥村壹岐へ可

申聞旨被仰出、則壹岐へ葛卷新藏申達候。か様の認の物は、向後御前へ出し申聞敷旨、御近習頭共へ可申渡旨御意に付、稻垣三郎兵衛へ申渡す。

一、浪人鐵炮御改の儀

享保三年八月浪人鐵炮御改の儀に付、松平大和守殿白川開番より大目付衆の内へ承合候處、御届には及不申候。然共嶋田佐渡守殿迄、左様の品無之段御届有之候へば、猶以て被入御念儀の由に付、外の聞番共も御届可仕旨申候間、此方よりも御届可申入かの段、聞番共此時湯原某右衛門、田原某、堀某、田原某、堀某、田原某、堀某爲念迄に一往伺申と被思召候。こなたの御家などに、左様の者可有之儀にて無御座候。其共に御届有之候様にと、御役人衆より指圖候は、其上に何かと申者無宜候。御指圖の通に御届仕候て尤候。此儀御届には不及候。若又御届も有之候へば、被入御念の由に候間、小身の御方はいかにも御届有之可然儀に候。こなた抔は押なべ御觸の儀故、御知せ有之迄の事に候間、此儀御届に不及と申趣に任せ申答に候。若又此儀に限り薩摩守殿・陸奥守殿・越後守殿・伊豫守殿などよりも、御届有之候は、又其趣に任られ、御届可有之儀に候。此御